

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 813 号	氏名	田中 浩二
学位審査委員	主 査 大西 真由美 副 査 小澤 寛樹 副 査 高村 昇		
論文審査の結果の要旨			
1 研究目的の評価 本研究は、介護老人保健施設（老健）に勤務する職員のバーンアウトに関連する要因を、職員の基本属性および感情表出の観点から明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。			
2 研究手法に関する評価 長崎県内の老健 30 施設に勤務する看護および介護職員を対象に 1,470 部の自記式無記名調査票を送付し、411 名から回答を得た(回収率 28.0%)。調査項目は、基本属性（性別、年齢、経験年数等）の他、バーンアウト評価尺度として Maslach Burnout Inventory (MBI)、感情表出尺度として Nurse Attitude Scale (NAS) を用い、統計学的に解析したもので、研究方法も妥当である。			
3 解析・考察の評価 MBI 高得点者（高いバーンアウト）の割合が、消耗感は 51.6%、脱人格化は 31.4%、低達成感は 83.8%であった。先行研究との比較において、本研究結果では、バーンアウトの程度が高いことが示された。また、消耗感では NAS の下位尺度の批判、脱人格化では男性、40 歳未満、NAS の下位尺度の敵意が有意な関連要因として認められた。これらの結果により、介護職員の患者に対する批判や敵意のような否定的な感情表出は、バーンアウトに有意に関連することが示唆された。			
以上のように本論文は、慢性的なマンパワー不足が常態化している介護現場における職員のバーンアウトに関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			